榆木小学校　学校通信
No.３１
なりたい自分になる！
PLUS ULTLA
令和６年１１月２９日
文責　余宮

秋の深まりとともに、子どもたちの深い学びの饗宴。秋の紅葉より見ごたえがあります。

お試し期間という民主主義

少し前になりますが、榆木小では「校則見直し活動」を実施しました。保護者の皆様には、本校の校則についてのアンケートをお世話になりました。子どもたちや本校教員を含め、本校校則についての見直しポイントとして、本年度は「朝遊びの復活」が提案されました。

朝遊びは、朝から体を動かすことで自律神経（特に交感神経）が活性化され、学習への好循環が生まれます。その上、遊びの中で培われる社会性やコミュニケーション能力は大変重要です。とても素敵な提案だと、私は思っていました。

しかし、提案者側の計画委員会のかなさん（仮名）が深いため息をついています。どうしたのでしょう。少し耳を傾けてみたいと思います。

「朝遊びは、良さだけではないんですよね。これが…」

朝遊びをしてしまうと、夢中になりすぎて授業の時間などに遅れてしまうという懸念があるというのです。非常に論理的な思考を巡らせるかなさんに、私はほとほと感心してしまいました。そして、実際の校則見直し会議では、前半こそ朝遊びをするのは楽しいし、健康になるし、いうことなし！みたいな空気が漂っていたそうですが、後半やはり朝遊びのデメリットが取り沙汰されることに。遊びのよさはわかるんだけど、けじめがつかないような状態になったら、せっかくの遊びが台無しになる。

紆余曲折したその話し合いの結果は…「お試し期間」の設定。

素晴らしい提案です。朝、遊ぶと楽しいし、簡単に考えるならば朝遊び決定、となりそうなところです。しかし、我が榆木の子どもたちはきまりを変えることのメリットだけではなく、デメリットも考慮しています。その上、だからダメ、という結論ではなく、そのデメリットをどうにか解消できる方法を模索し、みんなが授業のはじまり時間をちゃんと守れるか「お試し期間」を設定する、という新しい方法を創り出す。見事、というほかありません。

まさに、榆木版「民主主義」ですね。

そもそも、民主主義は多数派が正義、みたいに勘違いをされることが往々にしてあります。多数決で勝った方のやり方が採用される。もちろん、そんな側面がないわけではない。ただ、多数決は最後の最後にどうしても決定せざるを得ない場合にのみ使うものであって、本来の民主主義ではない。本当の民主主義は、議論を重ねることにより少数意見を掘り起こし、その意味に向き合う。そのことで、よりよい私たちの暮らしを発明し、誰一人取り残さない社会を創り上げることにある。少数派が、なぜ少数しか思いつかないような意見をもったのか、その文脈に寄り添うことでみえてくる、多数派の本質的な問題点をあからさまにする。多数派だけの考えでは、思いもよらなかった少数派の洞察に、活路を見出すことができる。だから、どんな意見にもリスペクト。だから、わからない人の意見こそが尊重される。

民主主義の中では、思いもよらなかった結論がでる。そんな社会制度が、民主主義の醍醐味です。これを、人が英知を積み重ねて創った発明品ということも、またすごい。今回の榆木版校則見直し活動に、本来の民主主義の本質を私は見せてもらいました。ブラボーです。